

事業名

アウトドア × 防災 × キャンプファイヤー（仮）

なぜこの事業をしたいのか

- ・ 身近な場所での非日常的な自然体験による連帯感の熟成
- ・ 防災訓練を通じた会話によるコミュニティ形成
- ・ 日常のストレスからの癒し（川のせせらぎや炎のゆらぎによるリラックス）

どこで(場所) いつ(日時) どんな人にむけて(参加対象)

- ・ 河川敷（まずは左岸の想定）
- ・ 秋（台風シーズン後）夕方から夜にかけて、土・日を想定
- ・ あらゆる世代

何をするのか（具体的な企画）

- ・ 炊き出し訓練
- ・ 焚き火・キャンプファイヤー
- ・ 防災の疑似体験（デジタルデトックス）
- ・ 花火
- ・ 河川敷で、テントで宿泊

参加型、作ることから参加してもらう。
会話、共同作業によるコミュニティ形成。

火おこし体験、薪の組み方、火の消し方、処分方法
災害時の暖の取り方として学ぶ

テントの設営、資材の仕分け、応急処置の方法などを
疑似体験により学ぶ
防災食、災害時の調理法など

子どもたちの参加のきっかけ作り
身近な場所でのアウトドア体験

第1回

- ・ 焚き火 — 持参ツール、メーカーの協力
花火などの火気使用エリアを決める
- ・ 宿泊 — スタッフが宿泊して状況確認
モニター募集、アンケートの実施（社会実験的、自主参加型）
- ・ アウトドアだけでは、地域の理解が得られない。
地域を巻きこむきっかけ→防災
- ・ カエルキャラバンの活動と一緒にする。